

# 平成30年度 第2回 彦根市子ども・若者会議

平成30年(2018年)11月2日(金) 午前9:30~11:30  
彦根市福祉センター別館2階 集団健診室

## 1 子ども未来部長あいさつ

## 2 議事

- (1) 次期彦根市子ども・若者プラン策定に係るニーズ調査等について
  - ア 第二期市町村子ども・子育て支援事業計画等概要(国通知・資料)
  - イ 現行計画位置付け・関連・策定時調査等
  - ウ 次期計画策定調査内容等(対象者数)
  - エ 調査票(案)
  - オ 調査・会議開催等スケジュール
- (2) その他

資料1① 国通知・第二期市町村子ども・子育て支援事業計画「量の見込み」算出等考え方

資料1② 次期計画策定調査等概要・国資料

資料2 「彦根市子ども・若者プラン」位置付け関連・策定時調査等

資料3① 次期「彦根市子ども・若者プラン」策定に係る調査内容等

資料3② 次期「彦根市子ども・若者プラン」策定に係るニーズ調査等対象数(案)

資料4 次期計画策定のためのアンケート調査票(7種類)

資料5 平成30年度年間スケジュール(次期計画策定調査・「子ども・若者会議」開催)

## 【事務局】

定刻となりましたので、ただいまから平成30年度第2回子ども・若者会議を開催させていただきます。本日は、皆様お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。開催にあたりまして、子ども未来部長からご挨拶申し上げます。

## 【子ども未来部長】

本日はお忙しいところ、本当にありがとうございます。皆さんには日頃から本市行政、とりわけ子ども・若者支援、子育て支援など福祉施策の推進にご理解とご協力をたまりません本当にありがとうございます。

彦根市子ども・若者会議は、子ども及び若者に関する策を総合的かつ計画的に推進するために設置しているもので、施策の総合的かつ計画的な推進に関して必要な事項について調査、審議することとなっています。

本日の会議では、次期彦根市子ども・若者プラン策定に係るニーズ調査について調査票の内容や調査方法についてご意見をいただくこととしています。限られた時間で、大変申し訳ありませんが、どうぞ忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。

## 【事務局】

本日の子ども・若者会議については全委員20名中8名のご出席をいただいております。お手元に配付しておりますように、欠席委員の方々からはご意見を頂戴しており、このまま会議を進めさせていただきますので、こちらについてもご了承いただきますようお願い申し上げます。

(事務局自己紹介)

(資料確認)

ここからは条例第6条第1項の規定により、会長が議長になっていただき、議事の進行をしていただくこととなっていますので、会長、よろしく申し上げます。

## 【会長】

第1回が9月末に開催され、平成29年度の子ども・若者プランの実績及び評価についてご審議いただきまして、ニーズ調査等についての工程表などもお示しいただいたわけです。いよいよ本日は次期事業計画の策定の基本となるニーズ調査についてということで、ぜひアンケートを受ける立場に立っていただきながら、またそれぞれのお立場でご意見を頂戴できればと思いますので、よろしくお願いします。

それでは次第にしたがって進めてまいりたいと思います。今日の大切な議事、次期彦根市子ども・若者プラン策定に係るニーズ調査等について、事務局から説明をお願いします。

## (1) 次期彦根市子ども・若者プラン策定に係るニーズ調査等について

### 【事務局】

(資料1～5に基いて説明)

### 【会長】

特にアンケート内容に関してのご意見を頂戴したいということで、個々に修正意見等いただきましたものは復唱いたしません、アンケート全体としては彦根市の子ども・若者プランに関わるものとして就学前児童、これが資料4-1、そして資料4-2が小学生用です。それから18歳から39歳に対するアンケート。この3つが子ども・若者プランに係るアンケートとなっています。

そして貧困対策というところが4-4にきて、4-5そして4-6、4-7となっていますが、以上、資料4の7種類のアンケートについて、ご欠席の委員からの修正意見等のことを詳細にご説明い

いただきました。

皆さまからご質問やご意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。

#### 【委員】

質問といくつか意見を述べさせていただければと思います。資料3-2、ニーズ調査の若者の意識調査の配付、700件ということですが、これは無作為に配付されるのか。どういった方に配付されるのかということが気になりました。700人の抽出の仕方をお教えいただければと思います。仮に市外の方が入るのであれば、彦根市のことを聞いているのにとお伺いしました。

資料4-3についてですが、1つ提案です。2ページ、問1で現在、仕事をされていない方に関する話をされていますが、今は若者に限らず、仕事を辞めたいと思っている方が結構いるなどということを感じています。問5-1で仕事をされていない方に対して聞かれている質問があるのであれば、問5-2を設けて、「現在仕事をされている方はその仕事を続けられる意思を持っていますか」という質問を入れていただくと、今の若者の意識が反映されるのかなと思います。この質問の回答内容によっては、仕事を辞めようとしている方が多くいるということが分かると思います。

問5-1の問の中でも1~7までの選択肢がありますが、退職をされる理由として、仕事に就いたとしても続かないという回答を入れていただければと思います。

問16あなたは普段どのくらい外出しますか、という質問で、選択肢が1~8まであって、5~8はひきこもりの定義なので非常に分かりやすいと思いますが、1、2、3の違いがぱっと見て分かりづらいです。例えば、1. 仕事や学校で休みの日以外は毎日外出する、と2. 仕事や学校で週に3~4日外出する、の違いが分かりません。外出する頻度を日数で書いてもらったほうがいいのではないかと思います。

これも希望的観測のようなところがありますが、働いている方でも仕事以外に外出することはないというような、社会的孤立といった概念が言われているところがあると思います。もしもこういった質問項目で、仕事では毎日外出するけれども、プライベートで外出することは少ないという項目を入れていただいて、そういった方が一定数おられるのであれば、社会的孤立が進んでいるという現状が見えてくるのではないかと思います。

問16-6、地域若者サポートステーションの所在地が草津市、彦根市、高島市と書かれていますが、現在は高島市では相談を行っていません。大津市のほうでさせていただいていますので、ここは大津市に変更願います。問16-12にも同じものが載っていますので、変更願います。

13ページに【お願い】が載っていますが、前回の調査は分からないのですが、今回、本当に若者の意識ということで困難を抱えている方のご意見を頂戴するというのであれば、例えば、子ども・若者総合相談センターに現在通われている方に抽出したというかたちで送ってはどうかという意見もありました。そういった方であれば生の声を聞けるとは思いますし、そういう機会と時間と費用と場所があるのであれば、これはぜひ残しておいていただければ若者の声をくみ取っていただければと思いますので、残すべきではないかということでご提案させていただきます。以上です。

#### 【会長】

1つの質問と大きく分けて4つのご意見がありました。

質問は調査対象数、調査数ということで、若者の意識調査700件の抽出の方法について事務局より回答願います。

#### 【事務局】

700件についてですが、前回、500件を無作為抽出されて、200件については市内の大学と市内事業所に対して実施されています。今回もそのようなかたちで考えていますが、追加意見として発達支援センター、子ども若者総合相談センター、社会福祉課、子育て支援課等に関わりのある方について無作為抽出で選ばせていただいて、送らせていただくという方法も検討しています。

こういった方法を採用すると、市外に居住されている方も若干含まれてきますが、それは勤労や就労で彦根市の施設等を使用されているということで、調査項目に答えられる形で考えていきたいと思っています。以上です。

【会長】

いかがでしょうか。

【委員】

大丈夫です。

【会長】

ご意見をいただいております。資料4-3の2ページに仕事を続ける意思はあるかという設問を入れてはどうかという質問だったかと思えます。また、問5-1で仕事が続かないということを探ねる項目を入れてはどうかということ。それから6ページ、仕事や学校で云々というところの表記について。それから社会的孤立という部分で、プライベートと仕事というところの意識はどうかということ。それから7ページ、高島市を大津市に修正するという事です。それから13ページを削除ということですが、やはりここは大事なところなので、なんとかヒアリング等できるように残すということも入れながらということ。だいたいこういったところいかがでしょうか。

【事務局】

基本的には可能な限りご意見を反映し、修正させていただきたいと考えています。最後の13ページについては、そういった意見をいただきながら削除するのか、そのままにするのかというところは検討させていただきたいと考えています。文言等も含めて検討いたします。

【会長】

前は13ページの内容の回答はまったくなかったということですか。ほぼないのですか、それともゼロですか。

【事務局】

ありませんでした。

【会長】

誰も書かなかったということで、それで削除ということですね。しかし何とかヒアリングできるということが大事なのではないかというご意見です。

【委員】

資料4-5で、子どもの生活に関する資源量アンケート調査の対象が困難を抱える子どもに関わる支援団体、機関へとなっていると思いますが、書きぶりが「関係機関」という機関あての文章になっています。機関に限らないということなので、「機関・団体」と変えてはどうかと思いました。

子どもの貧困対策計画として貧困をどのようにとらえるかというところにかかってくるので、あまり大きな話として出すべきではないかなと思いますが、例えば、私ども社会福祉協議会が関わっている支援団体、子ども食堂や学べる場を提供している方々は経済的な困窮を抱えている世帯の子どもたちを対象に活動しているという思いがそれほど強くないのかなと。貧困を考える時に、経済的な相対的貧困という問題はありますが、いわゆる愛情の貧困や関係性の貧困、そういった相対的貧困部分をどうとらえるかというところで、そこを対象にしたアンケート調査として実施するほうが回答しやすいのかなと思いました。

あくまでこれは経済的困窮というところでの貧困を対象にした調査ということであれば仕方ないかなと思いますが、そうするとおそらく調査団体、調査対象になった団体さんとしては非常に答えにくくなるのではないかという印象を持ちました。それで根本的な話になってしまうのでどうかなとは思いましたが。

資料4-6は学校・園への調査だと思いますが、今の考え方としては、例えば、学校や園においても同様の視点はあってもいいのかなと思いました。その辺りここで議論していいか分かりませんが検

討いただけたらと思います。

**【会長】**

1つは機関だけではないというところで、表記を「機関・団体」に変更してはどうかというところ。貧困のとらえ方についても、経済的なものだけではないということ。そこだけを考えて書きにくくなるというところもあります。

**【事務局】**

貧困の定義をアンケート調査の最初の部分でうたいながらご意見をいただくことを前提にするということであれば、経済的な困窮だけではなく、つながりの希薄化といった部分も踏まえてご記入いただくかたちも検討したいと思います。

**【会長】**

今のご回答は、冒頭のお願いの文章や設問に「経済的に困窮するなど」という表現を並記するなどしてもう少し広げるといことでよろしいでしょうか。そうすると答えやすいとは思いますが、設問と回答していただく項目がつじつまが合うかどうか私も検討できていませんが、もし広げて解釈いただけるのであればありがたいなと思います。

**【事務局】**

特に支援団体さんに対しての質問については、地域での活動という部分で子ども食堂であったり、そういったところを出ささせていただくので、その部分は入れさせていただくということでもいいのかなと考えています。小中学校については、その部分について入れるべきかどうか事務局でも検討したいと考えています。できれば経済的な面を中心に聞かせていただいたほうがいいかなとは考えています。

**【会長】**

記述のところでは貧困についての考え方の問いがございしますが、この辺りの記述からやはり経済的な部分ももちろんですが、それに関わってつながりであるとか、愛情であるとか、そういう貧困も書かれてくる場合があります。経済で視点は絞るけれども、その辺りのご意見を聴取することは可能かと考えます。貴重なご意見ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

**【委員】**

先ほどのご意見と重なる部分もありますが、資料4-3の間16で、1から4を選んだ方は16-7へということ、16-7ではその方のことではなくて、周りの方のことを聞いています。1を選んだから、2を選んだからどうということではないのかなと思います。ですから1から4をそれぞれ分ける必要があるのかなと。1、2の方がそれぞれどれぐらいおられるかが知りたいのであれば分けてもいいとは思いますが。外出する方については、家族とか周りの方について問16-7で聞いているので、問16では外出するかしないかという問いでもいいのかなと思いましたが。もし1~4に分ける場合は、学校や仕事の休みの日以外は毎日、休みの日に外出される方もおられますので、分けるのであれば、活発に外出していますというような選択肢も入れたほうがいいのではないかと思います。

後は、ニーズ調査の内容が多いと思います。前回も同じぐらいの量の質問をされたのでしょうか。対象が比較的若い方なので、読んで、回答することができるのかもしれませんが、問4-1でもかなり量が多くて、できればもう少し減らしていただければと思います。

**【会長】**

問16-7についてのご意見が理解できなかったのですが、この項目をどうしたらいいのでしょうか。

**【委員】**

問16-7は、本人のことを聞いているのではなく、家族や親しい友人にこういう状況の方がおられ

ますかという質問です。問 16 で 1 ～ 4 を選択した人に限定する必要はないのではないかと思います。

【会長】

1 ～ 4 の回答者に限定する必要があるのかということですね。全員に聞いてもいいのではないかと  
いうことですか。聞くのであれば 1 ～ 4 以外の人に聞いてもいいのではないかと  
いうことですね。事務局、どうですか。

【事務局】

問 16 は限定しなくてもいいのではないかと  
いうことですか。

【会長】

全員に聞いてもいいのではないかと  
いうことですか。特に 1 ～ 4 の方に聞く必要というの  
はあるのか、ないのか。

【事務局】

問 16 で 1 ～ 4 を選んだ人にうかがいますという項目を消して、全員にお聞きしますと書くと。

【会長】

集計上、何か意図があるのでしょうか。

【事務局】

検討させていただき、修正するかどうか決めさせていただきます。

【会長】

集計上、クロスをかけるために抽出しているわけではないということですね。

【事務局】

クロスをかけなくてもいいとは思いますが、集計上、クロスをかける必要があるかどうか、業者とも確認いたします。

【会長】

各項目、クロス集計でこの項目と項目を関連して集計するという関係上、また業者と検討するということ  
です。

他に何かありませんか。この会議で彦根市立図書館の場所のことや蔵書数、建物など何とかならないかという意見が結構出ています。子育て支援の満足度の支援施策に入れていいのか分かりませんが、一度、図書館のことも聞いてみたらいいのかなと思います。この会議で図書館の状況についてご意見が出ていたのを記憶していますので、その辺りのニーズをこの機会に調査してはいかがでしょうか。例えば、資料 4 - 1 の 19 ページに入れられるかどうか分かりませんが。

【事務局】

例えば、公共施設とか。

【会長】

そうですね。毎回、図書館の話が出るのですが、伝えておきます、で終わっているの  
で、思い切つてこの辺り聞いてみてはどうかとは思いますが。これは意見です。

【事務局】

先ほどご指摘いただきましたように、問 43 に図書館の充実といったことを入れられそうでしたら一度検討させていただきます。

**【会長】**

会議で意見が出ていましたので、できれば皆さんにおうかがいするのでもいいかなと思いました。他にいかがでしょうか。

**【委員】**

資料4-1の問17の2で、幼稚園の預かり保育の利用を強く希望しますかという設問が追加されたと思いますが、この回答を「はい」「いいえ」だけではなく、理由も聞いていただいたらどうかと思います。なぜ利用したいかというところを聞けると、幼稚園としてはありがたいのかなと思いました。長期休暇中の教育・保育については問22で聞いてくださっているのかなと思いますが、普段の預かり保育のことも聞いていただけるといいと思います。

**【会長】**

預かり保育、ボリュームの関係で、それがどうかというところですが。

**【事務局】**

今回、言っていただきました点は国から示されている追加項目で、最低限これだけは聞いておくようにということになります。理由についてはボリュームの関係も踏まえて幼児課とも調整をしながら追加できそうであれば追加の方向で検討したいと思います。

**【会長】**

預かり保育については国の設定項目で、今回新たに追加されたということですね。ボリュームの関係で理由を聞くかどうかについては検討するということです。ボリュームを抑えることは相当努力が必要だと思いますが、できますでしょうか。もう少し分かりやすくというご意見もあります。丁寧に説明しようとするれば、特にルビを打つ、打たないというのでまた増えてしまうとか、その辺りのさじ加減が非常に難しいと思うのですが。全体的にはレイアウトを工夫すればボリュームをもう少し抑えることができるということですね。

**【事務局】**

資料4-1、4-2がかなりボリュームがあつて、3以降は1と2に比べると多少余裕があるかなと思います。先ほどより意見をいただいています追加部分については、3以降のもので言っていると思いますので、そこについては多少はまだあるのかなと考えます。1のボリュームを抑える方法としては2ページ目の子育て支援のレイアウトなどは削除しながら、まとめられるところはまとめてとかたちで検討したいと思います。

**【会長】**

前回の回収率が50%弱だったということですが、それを少しでも上げる工夫ということで、例えば、1人にアンケートが複数届くということはあるのでしょうか。

**【事務局】**

その点について、資料4-4の調査は小学5年生と中学2年生の皆さん全員になりますので、小学校5年生と中学校2年生の兄弟姉妹がおられる家には2通郵送されることになります。しかし、それ以外のアンケートに関しては、重複しないようにデータの抽出を行います。就学前の児童と小学校児童になると量が多いですし、内容も似通った部分も多いですので、その辺り重複しないようにさせていただきたいと思っています。

**【会長】**

基本的には重ならないようにするということです。学区についてはどうでしょうか。片寄らないように配慮されますか。

**【事務局】**

抽出の際にその辺りも考慮させていただけたらと思います。

**【会長】**

抽出も難しいですね。学区をまんべんなく、しかも重ならないようにということです。他にいかがでしょうか。

**【委員】**

2点あります。1つ目は次回以降、こういうことができたらいいなということですが、QRコードでアクセスしてインターネットで回答できるようにしてはどうでしょうか。民間はインターネットでの回答方式を取り入れていますし、何分かかるといことが書かれていると、それを見て回答していただけます。インターネットでアンケートを採ると集計も早いので、今後、そういった方式を採用されてはどうかと思います。

2つ目は資料4-1、4-2あたりかと思いますが、子育て支援サービスについてうかがいますというアンケートについておうかがいます。子育てサービスを「知っている」「利用したことがある」「今後利用したい」ということで、「はい」「いいえ」を聞いていくもので、就学前と小学生児童用とありますが、これを聞くことでプランに反映させるものがあるのでしょうか。単にそれを知りたいというレベルのものであれば削ってもいいのではないかと思います。

子ども・若者プランを見ていて、それぞれの項目で挙がってきている事業がある意味網羅されているのかどうかということの整理も必要ではないかと思います。例えば、就学前であれば、虐待相談について「知っている」「利用したことがある」は答えやすいと思いますが、今後利用したいかを答えるというのは普通に考えるとおかしいなと思います。その辺り、そもそもこの項目自体が何を意図しているかということもありますが、クロス集計が関係しているのか、単に各課が聞きたいという質問であれば、あえてこの調査の中に入れる必要はないのかなという気もしました。

**【会長】**

2つ目は国の設定項目でしょうか。国から必ず聞くようにとされている項目に該当しているので、聞かなければならないという内容ですね。「知っている」「利用している」「今後利用したい」という項目も国の指定ですか。

**【事務局】**

はい、そうです。

**【会長】**

では外せないということですね。多分、国全体もチョイスしながら、何らかの統計を取っていくということだと思います。ご意見ありがとうございました。

一つ目のアンケートを採る方法についてですが、これは他の市町の子ども子育て若者会議でも意見が出ます。インターネットを使ってもいいのかどうか事務局も分かっておられない部分もあると思いますが、可能ですか。

**【事務局】**

インターネットでのアンケート調査については、法的な部分でも問題ないと理解しています。ただ、業者選定の段階で予算の面や作業スケジュールに関して今からインターネットでの調査にすることは厳しいものがありますので、次回以降についてはその部分を踏まえながら検討していきたいと考えています。

**【会長】**

今回は無理だとしても、インターネットでのアンケート調査も可能ということですね。



**【事務局】**

QRコードでアクセスし、パスワードを入力してアンケートに答えるということは可能ですが、作業にもう少し時間が必要となります。

**【会長】**

最近、そういうアンケート調査が増えていると思いますので、ぜひ次回以降取り入れていただければと思います。ご意見ありがとうございました。

**【委員】**

資料4-1の18ページ、問37に「一般的には、母親が子育てに関わることが多い中」とありますが、この文言は現状に即していないように思います。子育てはほぼ母親が担っているという意味になりますので、できればこの部分はなくして、お父さんがという形で書いてもらったほうがいいのではないかと思います。

それから、例えば、私たち委員にアンケートに関して、あるいはこの会に関する回答をしてほしいという場合、eメールでやり取りできればいいのではないかと思います。できましたらパソコンで回答できるようにしていただけたらいいのではないかと思います。以上です。

**【会長】**

2つ目は事前にメールで意見のやり取りができるようにということで、今後の会の進行についてのご意見だったと思います。またご検討いただければと思います。

それからアンケートの内容については、子育てに関して一般的に母親が子育てに関わることが多い中でのというのは分かりますが、お父さんは～と始めてもいいのではないかとということです。

**【事務局】**

そのような形で修正をさせていただきます。

会議の進行についてはご意見いただきありがとうございます。また、メールアドレス等を聞かせていただいて、どのような方法が委員さんの中で連絡が採りやすいか検討させていただきます。

**【会長】**

皆さんお忙しい中で会議の中ですべて意見を出していただくことは難しいと思いますが、ニーズ、内容等についてご意見がありましたらお出しいただければありがたいと思います。他はいかがでしょうか。まだあるとは思いますが、例えば、出た意見を集約してもう一回会議を開くことはスケジュール的に不可能ですので、今お寄せいただいた意見、そして今日、欠席の委員の方の意見もいただいていますし、のちほどお気付きの点があればお寄せいただき、最終的に事務局と会長、副会長で内容を精査し、決定していくということにさせていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

**【委員】**

異議なし。

**【会長】**

ありがとうございます。大変申し訳ございませんが、そのようにさせていただきたいと思います。では本日の意見と後日ご意見をいただくかもしれませんが、それも含めて修正等をした上で調査を進めていただくということで決定させていただきます。

それでは事務局、どうでしょうか。

**【事務局】**

会長よりお話しいただきましたようにお気付きの点については、1週間以内にご意見いただければと思います。欠席の委員さんについても改めて通知をさせていただきたいと思います。11月9日金曜日中にいただきました意見については、修正を検討させていただくということで、それ以降について

は進めさせていただきたいと思いますので、ご了承のほうよろしくをお願いします。

議題のその他については、特にございません。

**【会長】**

ご意見がありましたら 11 月 9 日中をお願いしますということです。できるだけいただいた意見を反映しながら修正を事務局と会長、副会長のほうで進めていきたいと思います。ありがとうございました。

それでは今日の話はすべて終わりということですので、事務局にお返しいたします。

**【事務局】**

本日いただきましたご意見、それから今後追加でいただきます意見等は今後の作業スケジュールに反映させていただきたいと思います。次回の会議についてお諮りをさせていただきます。次回は 1 月下旬から 2 月上旬にかけて実施させていただきたいと思います。

(次回のスケジュールについて)

**【事務局】**

これにて議題は以上になりますが、皆さまのほうからの連絡はございませんでしょうか。なければこれで平成 30 年度第 2 回の彦根市子ども・若者会議を閉会します。貴重なお時間ありがとうございました。それでは皆さん、お疲れさまでした。ありがとうございました。

(終了)